

農林水産省 東北農政局 秋田県拠点  
**秋田ニュース**

秋田県拠点では、管内農業者及び関係者等の地域活性化に向けた取組を紹介し  
 Stationed at Akita Prefecture Area,  
 Tohoku Regional Agricultural Administration Office

## 若手農業者との意見交換



秋田県拠点では、県秋田地域振興局とともに、振興局管内の4名の若手農業者をお招きし、経営上の課題や行政への要望等についてお話しを伺いました。



**滝 喜孝さん(井川町)**  
 ・就農9年目。3年前に(株)ローカルフレッシュを設立  
 ・水稲(14.8ha)の他、大豆(8.6ha)、えだまめ(4ha)等を生産  
 ・2年前からソーラーシェアリングにも取組む

### おもしろいと思ったことは、すぐ行動に

○家族経営時代には手がけていなかった野菜栽培の技術を農業研修で身につける中で、農業のおもしろさ、やりがい目覚め、本格就農に踏み切った。

○法人として経営の安定は十分考える必要はあるが、周りの取組や他業種からの提案でおもしろ

いと思ったことは、すぐ行動に移すことを心掛けている。

### 面積拡大に対応できる経営を目指して

○高齢化が進み、新しい人が入ってこない。基盤整備された水田があるのに、離農していく人が多い状況にどのように対処していくか、将来の不安がある。機械化により、限られた人数でも作業ができるキャベツやニンニク等の生産に取り組み、大きな面積を請け負うことにも成り立つ経営を目指して行く。

→(県) 新規作物の導入等に当たっては、いろいろと課題が出てくると思うが、経営の安定を目指した新しい視点での取組であることから、補助事業による支援も含め応援したい。



**伊藤 さくらさん(五城目町)**  
 ・就農(独立後)2年目  
 ・夏はミニトマト、トルコキキョウ等、冬場はほうれんそうを6棟のハウスで生産  
 ・町の農業委員としても活動

### 資金と人手の確保が課題

○独立の際、自己資金が少なく、使いやすい補助金もなかったので、ハウス建設の資金調達に苦労した。また、今年から花も始めたため、一人だけでは手が足りなくなっており雇用も考えざるを得ない。個別経営でも法人に対する「農の雇用事業」のような雇用に対する支援があればありがたい。

○地域で若い農業者は一人だけで、まわりから高齢化等で耕作できなくなった農地の受け手という期待を持たれているようで、すごく負担を感じている。法人化すれば対応できるかもしれないが、全く知識がないので踏み切れないでいる。

→(県・県拠点) 法人化に向けた研修やサポート体制も整備されているので、ぜひ活用願いたい。

### 夢は農家居酒屋

○将来は、畑をやりながら、自分で作った野菜を使った居酒屋を開くのが夢。まずは農業でしっかりと生計を立てて基盤を固め、畑は近所のおばさんたちに任せられるよう雇用を確立していきたい。



### 岡部 忍さん(秋田市)

- ・就農7年目
- ・えだまめ(4.2ha)を主軸にブロッコリー、大根等を生産
- ・加工施設を設置し、ゆで枝豆や漬け物を直売所やスーパーに出荷。

### 周年生産等への取組みが課題

○法人化の準備を進めており、さらなる所得向上に向けて利益の出る野菜の導入等新しい取組みが必要と考えているが、初期投資の大きさが課題となっている。また、規模拡大のためには労働力の確保が不可欠であるものの、通年雇用に向けて冬場に取り組める作物の導入が必要と考えている。加工所の設置も冬期の売り上げ確保等が目的の一つとなっている。

○えだまめを首都圏のマルシェで委託販売しており、高い評価を得ている。そうしたお客さんの声を直接聞きたいが、なかなか時間がとれないのが悩み。

→(県拠点)これから首都圏を含め、販路を拡大

していくためには、GAPへの取組も重要となる。6次産業化への取組も含め、様々な支援策があるので活用願いたい。

### 災害時の支援の充実を

○平成29年は水害で大きな被害を受け赤字となった。こうしたことが2年続くと営農継続はできないと覚悟したが、30年は比較的天候に恵まれ、そうした事態は避けられた。災害時の支援策の充実をお願いしたい。

→(県、県拠点) 県ではこれまでも既存事業の弾力的な運用により、緊急的に被災施設に支援してきているので、困った時は相談してほしい。災害時の収入補償については、農業共済等の仕組みが既にあるが、補償の対象等を広げた収入保険制度が新たに措置されたところである。○水田のなかにポツンと1か所だけえだまめを作っているような場所があり、水田の水が畑に漏れたり、農薬のドリフト等によりお互いにいやな思いをしている。せつかく基盤整備されたのだから、棲み分けにより効率的な農地の使い方を考えていく必要がある。



### 相場 美緒さん(秋田市)

- ・就農5年目
- ・えだまめ、ミニトマトの他、少量多品目の野菜が経営の中心(30a)
- ・生産した野菜は「あいばやさい」という名前で、市内の飲食店やスーパー等に出荷

### 就農時に県、国の支援策を活用

○東京から戻ってきて、祖父母がやっていた農地を継いで就農した。

農業に関する知識がほとんどなかったため、県のフロンティア育成研修を受講したが、農家への実習研修等もあり、とても役立った。

○販路開拓により広げてきた飲食店等への直販がメインであり、実際に食べてもらったお客さんが、おいしいとまた買ってくれる。そういっ

た声を直接聞けることがありがたい。

○就農に当たっては、青年就農給付金(現 農業次世代人材投資資金)を受給したが、最初の年は収入がなかったのが大変助かった。ただ、頑張って収益を増やした分、給付金が減ることについては複雑な思いを持った。

### 使い勝手のいい農地の確保が課題

○今年で青年就農給付金が終了するため、来年以降は失敗できない。経営確立のため、畑地の確保に努めているが、周辺が住宅地のため、適地が見つからず苦慮している。

○稲作で使う機械は祖父から引き継いだもので、老朽化のため更新が必要となっている。畑作関係は助成制度が充実しているが、水稻関係で使える支援事業がないので、機械更新に使える事業があればありがたい。

## 青色申告を始めましょう！

■青色申告を行っている農業者は、収入保険に加入することができます。

■青色申告は、自分の経営を客観的につかむための重要なツールです。

青色申告には、税制上のメリットもありますので、早速、取り組んでみましょう。

◇青色申告の主なメリット  
青色申告特別控除  
損失の繰越しと繰戻し

※帳簿を付けることで、経営状況を把握しやすくなるとともに、金融機関からの信用を得やすいといったメリットも出てきます。

東北農政局 秋田県拠点 地方参事官室

〒010-0951 秋田市山王7-1-5 TEL: 018-862-5611 FAX: 018-862-5340

URL : <http://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/akita/index.html> Eメール(総合窓口) : [sanjikan-info-ak@maff.go.jp](mailto:sanjikan-info-ak@maff.go.jp)